

六小・富士便り

開校57年目

国立市立国立第六小学校

校長室便りNo.2

令和8年(2026年)5月15日

5月の教育活動から

5月に入り、各学年とも、多くの子供たちにおいて落ち着いて学習活動や授業に取り組む姿が見られています。もちろん個人差はありますが、それぞれの子供たちの状況に応じた取組や手立てを工夫しながら、学校生活を楽しく、元気に活動したり、学んだりすることができるよう、六小の教職員全員、日々努めているところです。



「あいさつ」への取組も意識されていることが分かります。廊下でのすれ違う時の「こんにちは」や黙礼等、明らかに昨年度より多くなってきています。登下校時や校舎内での取組の姿が更に多くなっていくように努めると共に、自然に当たり前「あいさつ」ができるように、年間を通しての活動を進めてまいります。ご家庭での「あいさつ」についても、ご協力をお願いします。

<教育実習が始まりました>

5月11日(月)からは、教育実習生を迎えています。これからの学校現場を支えていく教員を育成する場として、毎年、実習生を受け入れています。今年度は、2年生と4年生に一人ずつ、計2名の実習生が来ています。子供たちと直接関わりながら、大切な未来の教員となるための経験を積んでいきますので、六小をあげて、将来への希望や夢をもてるように指導や助言をしてまいりたいと思います。期間は5月末までとなりますが、保護者や地域の皆様には、ご理解の程よろしくお願いいたします。

<自己申告の面接>

毎年度、管理職と教員とは面接を行います。特に年度初めの1学期には、教員一人一人が自分の年間を通しての取組目標を設定して、それぞれの職に応じた、教員としての必要な力や視点など、身に付けていくこととなります。それを、私たちは自己申告の面接と言っています。

また、教員には、「教諭」・「主任教諭」・「主幹教諭」(「指導教諭」)・「副校長」・「校長」と、「職」が段階的に設定されています。

「教諭」は採用試験に合格をして学校に配置されると必然的に「教諭」となります。「主任教諭」以上は、選考という受験をして、合格することで次の職になることができます。そして、それぞれの職に必要な力を付けたり、その能力を高めたりしながら、子供たちが安心して学校で過ごしたり学んだり、活動できたりすることができるように、授業力や指導力等を磨いていきます。

自己申告の面接は、各職に対応した、自分が取り組む年間の見通しと、これからの教員人生のウィフワークを見つめる大切な時間です。各学期に1回程度面接をし、取り組み状況等を確認して、自分の成長を自身で見極めながら、最終は自己評価して次の年度を迎えるようにしています。毎年、大体この5月頃から6月頃までが1学期の面接期間となっています。

<授業観察>

年間において、2回以上は各教員の授業を観察しています。時間があるときには、授業や取組、活動の様子をできるだけ見に行きますが、授業観察としての時間は、1時間の授業を最初から最後まで見る機会としています。また、簡単な指導案も作成して取り組み、自分の授業力を知ると共に、

指導や助言を受けて、授業改善を行っていく機会としています。

楽しい授業ができるように、そして、授業での「楽しい」という言葉の本質的な意味を教員自身がしっかりと学ぶ機会としていきたいと思います。授業観察は、1学期は1回、2・3学期で1回以上行うようにしています。

ICTを活用して

授業において、一人一台端末を活用するようになり、これまでの授業の形態も大きく変化してきました。また、保護者の皆さんとの連絡等も、すぐーるやグーグル・クラスルームなどの紙ベースでないものが主流となり、便利で使い勝手の良い学校環境や学習環境となっています。

更には、AIを使うことも推奨され、多くの場面でデジタル化が図られてきています。私の配信している校長室便りも、予約しておけば時間通りに配信されますし、イラストや図についてもAIで作成することで著作権の心配も軽減されました。

しかし、その反面、気を付けていかなければならないこともあります。便利になった分、これまで自分で考えることを通して身に付けてきた想像する力、書くこと自体の力、書くことで覚えることにつながる力等々、あくまでもツール(道具)であって、学ぶことそのもの自体を全て任せるものではないということです。更には、相手と連絡を取る場合に、見えない相手をどれだけ意識できるか、チクチク言葉などの不適切な言葉を使わず、ふわふわ言葉の相手を大切にしたい言葉を使うこと等、そして、使う上での以下のようなリテラシーの力も必要となります。



- 情報リテラシー⇒膨大な情報から必要なものを検索・収集し、正誤を見極めて活用する能力。
- ITリテラシー⇒パソコンやスマートフォン、インターネットを適切に使いこなす知識や技術。
- メディアリテラシー⇒テレビ、SNS等の情報を鵜呑みにせず、批判的に読み解く能力。

ご家庭においては、子供たちを信頼するからこそ、適切に使用されているかを、保護者と子供で確認できる関係を大切にしてください、安全で安心なICT活用の環境を作っていきましょう。

【校長のつぶやき】

最近になって、自分の部屋の片付けに時間を割いていることが多くなり、断捨離的に進めています。ご存知の通りに音楽の活動経験がありますので、部屋にある主な物と言えば、やはり楽譜やイベントで使った資料、担任として関わった教え子からもらった物やコンサート等で関わった方々から頂いた物、学校を異動したときに家庭に持ち帰った物、もちろん日常的に着る衣服などもあり、本当にたくさんの物に囲まれています。

その中で、中学生時代にフォークバンドをやっていましたので、その時に使っていたギターがあり、かなり古いものですが、チューニングをしてみると、まだ使えることが分かって弾くようになりました。ただし、ほんのちょっとの時間でも置いておくと、毎回チューニングが必要です。何でもそうですが、日々少しでも手入れしたり弾いたりしていれば、きっと今も、もっと良い状態であったと思います。

そのことは、声を出すことにも言えることです。合唱をするために、毎日、発声練習をしていた頃と比べると、本当に声が出なくなりました。鏡も毎日磨くと、毎日きれいに見えるのと同じように、声も日々正しい姿勢で出すようにすると、よく響く声が出るようになります。

ギターを弾くようになったことで、声を出すことにも意識し始めた今日この頃です。